

「雲入り短冊(楮・三桎)」和歌をしたためるための短冊。短冊の天と地に染められたぼかしは、染料で染めた楮の繊維を流しこんで漉いたもの。サイズは小さいが厚さのある紙のため、よく時間をかけて漉きました(36×6cm)。

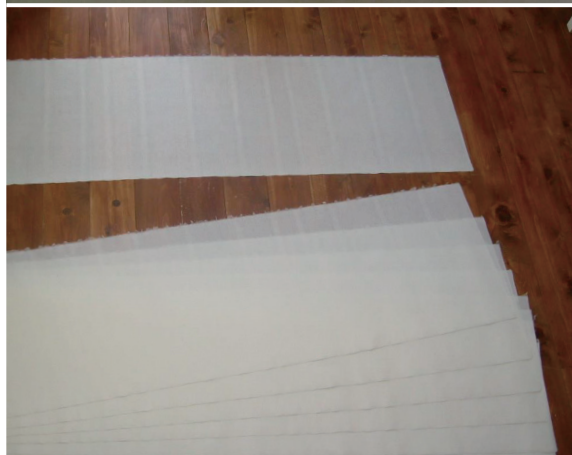
「半切 楮」書道や画用に用いられる半切は、墨や絵の具の染みを防ぐため、染み止めを行い、書や画を引き立てるため白く晒す。長く、薄い半切は、乾燥時にシワが入りやすいので、丁寧な仕事が求められます(41×146cm)。

「萱葺漉き 楮」一般的に和紙は竹ひご製の簀を用いて漉かれますが、本品はすすきで作られた簀(萱葺)で漉いた和紙。竹ひご製の簀より太いので、全体に簀の目模様の透かしが入るのが特徴。漉いた紙を積み重ねる時、簀の間に気泡が入りやすいので、ゆっくり気泡を抜きながら積み重ねるのも漉き紙の技。書や画のほか、透かしを趣きとして障子紙としても使われます(57×97cm)。

吉野 綾野

1999年黒谷和紙研修生となる。
2001年和紙職人として独立。
2009年「京もの認定工芸士」認定。

〒623-0108
京都府綾部市黒谷町東谷3番地-1
黒谷和紙協同組合
TEL&FAX.0773-44-0213



楮の木のしなやかさと

強靱さを和紙に託して

ベテランの紙漉き職人の技とリズミカルな水音に憧れ、少しでもその技に近づけるよう、日々黙々と紙を漉いています。楮や三桎の木から一枚の和紙を作る時も、自然への敬意と感謝を込めて楮本来のしなやかさと強靱さを損なわないよう丁寧な仕事を心がけています。現代は和紙を必要とする場面が減少する一方ですが、手描きの手紙や絵画、障子や懐紙などを使う暮らしの豊かさを発信していきたいです。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもつ有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。

京もの認定工芸士 第38号

吉野 綾野

よしの あやの

